

(第3種郵便物認可)

# 1人暮らしへサポート

## 千寿会・障がい者グループホーム

特定医療法人社団千寿会(千葉泰二理事長)は、障がい者グループホームの利用者が生活するサテライト型住居を増設した。9月中旬から運用を開始しており、将来的な1人暮らしへのサポートを推進する。

## 「サテライト型」住居を増設

自立生活の支援などを盛り込んだ改正障害者総合支援法では、グループホームを本体住居、アパートの一室をサテライト型住居と位置付けて、将来的な1人暮らしを目指す取り組み。

同法が昨年4月に施行されたことを受けて、同法人は同9月、サテライト型住居第1号を設置した。グループホームに近い民間アパート2棟の計2部屋を活用。家電製品のほかベッドなどをそろえ、日常生活を過ごせる仕様とした。

サテライト型住居で起床、就寝する。職員が送迎を行い、就労や日中活動を終えてサテライト型住居に戻る。職員による定時連絡、定期訪問で生活の困り事、心配事などを随時相談できる体制を整える。



新たに導入したサテライト型住居の一室(提供写真)

同法人が運営する障がい者グループホームアザリアなど4施設の総合施設長・及川拓郎さんは「昨年、1人暮らしを始めた利用者さんも、少しずつできることが身に付いています。グループホームでは掃除の当番など集団生活ならではのルールがあります。グループホームでしたが、サテライト型住居では自由な半面、1人でやらなくてはいけません。自分で考えて一つずつクリアすることで、次のステップアップへつながるのではないのでしょうか」と話している。

(石川昌希)